

QUARTERLY REPORT



MANAGING OFFICE
2-5-1, SHIKATA-CHO, KITA-KU
OKAYAMA 700-8558 JAPAN
PHONE:086-235-7023 FAX:086-235-7045
<http://www.chushiganpro.jp/>

VOL.37
2013.MAR

趣旨・組織

がんは、わが国の死亡率第1位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等(メディカルスタッフ)の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成をおこなうため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとにおこなわれる大学院のプログラムが「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」です。



ごあいさつ

本プランは、中国・四国地域に位置する10大学がひとつのコンソーシアムを作り、各大学院に多職種のがん専門医療人養成のためのコースワークを整備し、これに地域の37のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門医療人を送り出すことを目的としています。

がんに関わる多職種の専門医療人が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることができるよう職種間共通コアカリキュラムの履修を出発点として教育研修をおこないます。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を連動させ、大学院教員の教育能力を強化しています。

各大学・地域の持つ特色を活かし、互いに補完・止揚する教育拠点を確立します。高度なレベルで標準化された共通コアカリキュラムおよびeラーニングによる域内統一教育(共育)と、大学間連携による大学、分野、職種をこえた専門職連携教育(協育)をおこないます。また、英語教育と海外先進施設との連携により国際的に活躍する医療人の養成と、地域医療機関・患者会との連携による在宅高齢者ががん医療に貢献する専門医療人の養成をおこないます。これらの活動を通じて高度な専門知識に加え、チーム医療・リサーチマインドを身につけた全人的高度がん専門医療人が多数輩出され、中国・四国地域におけるがん治療の均てん化、標準化が実現され、各大学、地域における臨床研究や橋渡し研究の活性化を目指します。

当コンソーシアム事務局では、講演会、海外研修学生募集などの情報を広く発信することを目的としたクォーターリーレポートを発行しています。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸甚に存じます。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
事務局



がん分子標的治療薬開発の動向と AACR-NCI-EORTC国際カンファレンス

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
呼吸器・膠原病内科学分野 教授 西岡 安彦



平成23年8月、米国FDAはBRAF^{V600E}遺伝子変異を有するメラノーマに対するVemurafenib (Zelboraf[®])と、ALK融合遺伝子を有する非小細胞肺癌に対してCrizotinib(Xalkori[®])を承認した。近年がんに対する分子標的治療薬開発のスピード化が目立っており、特にdriver mutationと言われる遺伝子変異を有するがんに対する薬剤開発は基礎研究からのトランスレーショナルリサーチ手法がほぼ確立され、そのスピード化が顕著な領域となっている。上記2つの薬剤は、臨床試験の結果発表の時点で既にその薬剤耐性メカニズムまで解明が進んでおり、さらにCrizotinibにおいては耐性克服薬の臨床試験まで開始されている。また2つの薬剤の特徴は、FDAが2005年から進めてきたがん分子標的治療薬におけるDrug-Diagnostic Co-Developmentの推進、すなわち治療薬と診断薬の一体化開発の推進により、薬剤の承認と同時にその診断薬も同時に承認されたことである。2つの薬剤はこのような治療薬と診断薬の一体化開発が適切な患者選択による治療薬開発のスピード化に大きく貢献した典型例で、今後も同様のアプローチがさらに加速され進められると思われる。



一方、AACR-NCI-EORTC international conference は毎年交互に米国とヨーロッパで開催される分子標的治療薬開発に関する会議で、基礎研究から臨床第I相試験までのトランスレーショナルリサーチが報告される会議である。平成23年は、11月12日から16日までサンフランシスコで開催された。天候にも恵まれ、これまで以上の参加者が集い、最新のデータが発表されていた。私は2008年にもこの学会に参加していたため、その発表内容を本年と比較したのが図1である。全体的には従来発表の多かった臨床第I相試験の発表がやや少なくなり、いくつかの新たな分野が一つのシンポジウムのテーマに上がるほど、徐々に標的研究が大きくシフトしている感じを受けた。そのシンポジウムのテーマには、「microenvironment」、「immunology」、「metastasis/invasion」、「Stem cell」、「New assay」などがあり、これからの分子標的として注目が集まっている分野であるといえる。もちろん世界的規模で進められている各コンソーシアムによるゲノムプロジェクトからの成果もたくさん発表され、シンポジウムではそのプロジェクトの手法に関する具体的な発表が目立っていた。私にはかなり難易度の高い内容で、講演時間内で内容を十分に理解できないものも多かった。全体の印象からは、このような大規模プロジェクトから、これまで見逃していた既知の標的分子の再発見や横断的解析による新たな領域の分子標的(tumor metabolismなど)の発見、さらに最適な併用療法の発見が生まれてくるように感じた。



一方、同時期(10月27~29日)にヨーロッパのベルギーでEORTC-NCI-ASCO annual meetingというやや小さな会議が開かれている。この会議はまだ5回目と歴史が浅く、AACR-NCI-EORTCと比較して小規模の会議といえる。しかしテーマは「Molecular Markers in Cancer」ということからわかるようにがんのバイオマーカーに絞った内容であり、この分野に興味がある先生には最適の会議かもしれない。特に会議直前にチュートリアルコースが設定され、がんバイオマーカー開発の関係者に対する教育的講演が設定されているので、バイオマーカー開発について勉強したいという先生にはおもしろい会議であると思う。

2つの会議を通しての印象は、確実にがん分子標的治療薬を中心とした個別化医療が実現に向かっていくことである。特に肺がんの領域では、driver mutationに基づく分子標的薬の個別化医療の実現が目前に迫っている感じを受けた。一方、同時にこのような最先端のがん医療を迅速に患者さんの下へ届ける体制づくりが求められているのが現状である。中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラムが地域がん医療の均てん化に貢献し、最新のがん医療とケアが地域の隅々まで行き渡るような努力が必要である。

(平成24年2月執筆)

第2回 がん高度実践看護師WG講演会開催

がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開 ～がん薬物療法と高度な看護実践～

日時:平成24年12月15日(土)13:00~16:30
場所:岡山コンベンションセンター 3階コンベンションホール
参加者:523名

総合司会:雄西 智恵美(徳島大学)
講演会司会:藤田 佐和(高知県立大学)、宮下 美香(広島大学)

がん高度実践看護師WG講演会では、ケアとキュアの融合を根幹に5年間の全体テーマを「がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開」とし、1年単位でシリーズ化した講演会を年2回企画しました。平成24年度は「がん薬物療法と高度な看護実践」をテーマに、がん薬物療法についての基本的知識や代表的な有害事象への対応とセルフケア支援についての講演会を企画しました。シリーズ第2弾では、がん薬物療法の代表的な有害事象への対応とセルフケア支援、治療選択と継続に関わる意思決定支援について3名のがん看護専門看護師をお迎えし開催しました。

【講演者】

- ・遠藤 久美 氏(静岡県立静岡がんセンター、がん看護専門看護師)
「悪心・嘔吐、皮膚毒性への対応とセルフケア支援」
- ・成松 恵 氏(兵庫県立加古川医療センター、がん看護専門看護師)
「血液毒性、末梢神経障害への対応とセルフケア支援」
- ・池田 久乃 氏(高知県・高知市病院企業団立高知医療センター、がん看護専門看護師)
「治療選択と継続に関わる意思決定支援」

【終了報告】

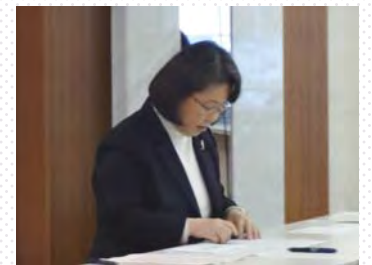
シリーズ第2弾においても、中四国全域から523名と多くの参加者がありました。参加者のうちシリーズ第1弾からの継続参加者は308名あり、高度な看護実践への関心の高さを感じる充実した会となりました。3時間半という長い時間にも関わらず、参加者のがん看護専門看護師の話を熱心に聞かれており、そこからは明日の看護実践に活かそうという意気込みが伝わってきました。

アンケート結果より、テーマについて95%の参加者が興味がある、94%の参加者が具体的にわかったと答えており、役立つ内容として挙げられた項目は、「意思決定支援」「悪心・嘔吐に対する対応」「皮膚障害に対するセルフケア支援」「血液毒性・骨髄抑制に対するセルフケア支援」「末梢神経障害に対するセルフケア支援」などでした。また、今後の講演内容の希望として、放射線、手術、緩和ケアについても行ってほしいという意見をいただき、今後の講演会テーマの方向性が得られました。

また、本年度より、年2回の講演会全てに参加していただいた方ががんプロから参加証明書が発行され、皆さまの参加意欲を高めることにつながったのではないかと考えられます。

【全体のサマリー】

遠藤 久美 氏 「悪心・嘔吐、皮膚毒性への対応とセルフケア支援」
悪心・嘔吐への対応とセルフケア支援として、「正確な症状の評価」、「制吐薬の確実かつ効果的な投与」、「非薬物的ケア」、「セルフケア支援」の4つの視点について話されました。「正確な症状の評価」では、共通の基準を用いた評価を行うために、有害事象共通毒性基準v4.0日本語訳(JCOG版)の紹介がありました。そして、症状の評価は、患者さんによく聴き、観察することが重要であることを述べられました。次に「制吐薬の確実かつ効果的な投与」では、悪心・嘔吐のメカニズムの理解やガイドラインに準じた投与の説明が表を用いてわかりやすく述べられました。「非薬物的ケア」では、食事や環境、心理的ケアなどについて具体的に述べられ、「セルフケア支援」では、患者用パンフレットや副作用メモの一例などが挙げられ、事例を通して説明されました。



統括の秋元先生



総合司会の雄西先生



講演会司会の藤田先生



講演会司会の宮下先生



遠藤 久美 氏

また、皮膚毒性への対応とセルフケア支援として、分子標的薬による皮膚毒性を中心に「正確な症状の評価」、「症状に合わせた治療」、「セルフケア支援」、「治療効果とのバランスを考えた支援」の4つの視点について話されました。

「正確な症状の評価」では、患者さん自身が症状の評価ができるようにすることの大切さを述べられました。次に「症状に合わせた治療」では、EGFRの発現と役割が述べられ、皮膚症状の発現時期を予測して積極的に、予防的に関わっていくことについて説明されました。「セルフケア支援」ではスキンケアの重要性と具体的な方法について述べられ、「治療効果とのバランスを考えた支援」では、事例を通して具体的な実践を述べられました。

成松 恵氏 「血液毒性、末梢神経障害への対応とセルフケア支援」

「血液毒性・骨髄抑制への対応に必要な知識」、「骨髄抑制に対するセルフケア支援」、「末梢神経障害への対応に必要な知識」、「末梢神経障害に対するセルフケア支援」の4つの視点について話されました。

「血液毒性・骨髄抑制への対応に必要な知識」では、①白血球減少(好中球減少)と感染、②赤血球減少と貧血、③血小板減少と出血について症状の発生メカニズムや出現形態、リファクター、症状の評価について説明され、アセスメントの視点や支持療法、などについて具体的に述べられました。そして、「骨髄抑制に対するセルフケア支援」では、感染予防の必要性を伝え、患者さんの感染予防行動をとる動機づけを行うことが感染予防行動の教育を行う上で重要であることを述べられました。また、外来化学療法患者さんへの指導時の注意点やセルフケア支援の実際についても事例を通し、具体的に説明されました。

「末梢神経障害への対応に必要な知識」では、がん薬物療法による末梢神経障害の病態や種類、メカニズム、アセスメント項目や評価の視点について述べられました。そして「末梢神経障害に対するセルフケア支援」では、非薬物的介入やONS(Oncology Nursing Society) PEP®(Putting Evidence Into Practice)の末梢神経障害に対するケアの紹介がされました。さらに事例を通した具体的なセルフケア支援の実際について述べられました。



成松 恵氏

池田 久乃氏 「治療選択と継続に関わる意思決定支援」

治療選択と継続に関わる意思決定支援として、「がん薬物療法(化学療法)を受ける患者さんが遭遇する意思決定が必要な場面を理解する」、「意思決定を支援するのに必要な看護を理解し、実践につなぐ」の2つの視点について話されました。

化学療法を受ける患者さんが遭遇する意思決定場面には、①治療方法を選択する、②化学療法を選択してからは、治療薬を選択する・治療の場を選択する・治療の中止を決断する、③緩和ケアの導入を決断する、④療養場所を選択する、の4つの場面があり、その流れについて図を用いて説明されました。それぞれの場面では、がん患者さんの思いも交え、看護職は情報を提供したり考えたりする視点が提示できるように関わっていくことの大切さを述べられました。また、悪い知らせを伝えるスキルとしてSPIKESの紹介があり、その際の看護職の役割について具体的に説明されました。

意思決定を支援するためには、問診から準備を整え、診察に同席の上、診察中から診察後まで継続的な関わりが必要であること、そして必要な情報をきちんと提供し今後起きうることの見通しが立てられるように情報を整理し、一緒に考えていくことが大切であることを述べられました。



池田 久乃氏

【参加者アンケート結果】

参加者523名のうち回答者408名(回答率78%)からは、メインテーマ「がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開」について、95%(非常にあった63.7%、まあまああった31.4%)の方が興味のある内容と答えており、94%(よくわかった42.4%、まあまあわかった51.5%)の方が具体的にわかったと答えられていました。また、講演を通して92%(非常にあった45.6%、まあまああった46.1%)の方が、がん看護の専門的な学習を深める意識を高める動機づけになった、85%(非常にあった33.3%、まあまああった52.0%)の方ががん看護のキャリア・アップをめざす動機づけになったと回答されました。

今回の企画に対して、215名の新規参加者があったことや95%が興味のある内容と答えていることから、代表的な有害事象への対応やセルフケア支援は、関心が高いテーマであり、参加者のニーズに応えられた講演会になったと考えられます。

また、「意思決定について具体的に知りたい」「放射線、手術、緩和ケアについても聞きたい」「今回得た知識を今後の業務に活かしていけるよう頑張りたい」「治療は日々変化する。情報提示をしてもらうと変化に対応する力となる。情報発信をしてほしい」というご意見もあり、本講演会が情報発信の場となることへの期待がうかがえ、がん看護の学びを深める看護職を推進していく一翼を担っていると評価することができます。

文責:高知県立大学大学院看護学研究科 藤田 佐和



会場の様子

活動報告

岡山 第14回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 地域連携セミナー

日時:平成24年11月7日(水)19:00~20:30
場所:岡山大学病院 入院棟11階 カンファレンスルーム(11H)
参加者:23名

講演
座長 岡山大学病院医療技術部 赤木 恵明
■「3D 画像診断「入門」」
岡山画像診断センター 副院長 笹井 信也 先生
■フリーディスカッション

終了報告

今回は、CTの3D画像診断に必要とされる基礎知識について、岡山画像診断センター 笹井 信也先生より講演していただいた。CTによる画像診断では3D画像処理が必須とされ、複数の画像処理技術を利用し多面的に診断アプローチを行うこと、また技術的な内容についてお話しいただいた。ディスカッションでは、参加者からの質問や意見を交えて活発な議論がなされた。

参加者からは、「診療科毎に必要なとされる画像は異なり、ハード面、ソフト面を駆使してどのように技術者側がその要望に答えていくべきかを考える良いきっかけとなりました。」「臨床医が求める3D画像には複数の画像処理アプローチを利用することが必要であり、時には病変を中心とした形態情報を選択的に3D画像化することが有用であることを学びました。」との声があった。



愛媛 第1回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

日時:平成24年11月9日(金)17:30~19:00
場所:愛媛大学医学部 臨床第2講義室
参加者:37名

講演
司会:愛媛大学医学部附属病院 腫瘍センター センター長 薬師神 芳洋 先生
■特別講演1 「XELOX投与時の副作用マネジメント」
座長 愛媛大学医学部附属病院 1-7病棟 山内 美砂子 師長
演者:独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
看護部 がん化学療法看護認定看護師 森 ひろみ 先生
コメンテーター:防衛医科大学校病院 腫瘍化学療法部 部長 市川度 先生
■特別講演2 「大腸癌化学療法の現状と未来」~分子標的治療薬の位置づけ~
座長 愛媛大学医学部附属病院 腫瘍センター 副センター長 児島 洋 先生
演者:防衛医科大学校病院 腫瘍化学療法部 部長 市川度 先生

終了報告

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 看護部 がん化学療法看護認定看護師 森 ひろみ 先生と防衛医科大学校病院 腫瘍化学療法部長 市川度 先生を講師に迎え、開催した。

大腸がんは近年増加傾向にあり、当院外来化学療法施行疾患で最も多いがん腫となりつつある。長期の化学療法が必要なこの疾患で、患者マネージメントは極めて重要な問題であり、森ひろみ先生はこの注意点を四国がんセンターでの施行経験を交え詳細に解説された。また、当講演会で2回目のご講演となった市川先生は、この疾患の国内外で施行された臨床試験を詳細に解説され、解析結果の吟味には、患者生存のみならず患者自身の持つ様々なファクター(社会背景やGOL等)を加味した考察が必要であること、また、施設での治療成果の向上には、多職種が関与する集学的治療が重要であることを述べられた。

参加者はメモを取りながら傾聴し、講演会終了後には活発な意見交換が行われた。がんの診療を行う医療者にとって貴重な講演会であった。



岡山 第15回 岡山大学医学物理士インテンシブコース がん放射線科学セミナー

日時:平成24年11月14日(水)19:00~20:30
場所:岡山中央病院 放射線がん治療センター2階
カンファレンス室
参加者:17名

講演
座長 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇
■「放射線治療計画の線量検証法概説と実践(基本編)」
岡山中央病院 放射線科 加茂前 健
■フリーディスカッション

終了報告

今回、初めて外部施設(岡山中央病院)にてセミナーを開催した。岡山中央病院放射線科 加茂前 健 先生より放射線治療計画の検証法について概説していただき、実際の実機による実演が行われた。講演とともに、岡山中央病院放射線がん治療センターに導入された最新鋭の装置による実演を通して、基本的な技術に関わる内容を指導していただいた。質疑応答では、実際の運用面での課題や展望に対する質問などを中心に活発な議論が交わされ、盛況に終わった。

参加者からは、「基本的な内容であったがわかりやすく説明していただき、活発に意見交換をすることができました。また、学生や新人にとっても、大学で学習した知識を整理できるよい機会であり、とても有意義な時間を過ごすことができました。」との声があった。



香川 第1回 地域がん医療人共育コースインテンシブセミナー

日時:平成24年11月16日(金)9:40~16:20
場所:高松テルサ3階 視聴覚教室
参加者:39名

講演
テーマ:「今一度問い直そう・認定看護師としてのコンサルテーション」
第1セッション:「認定看護師として求められるコンサルテーション」
■コンサルテーションされた事例をもとに
講師:三豊総合病院 佐藤 愛子 氏
■質疑応答
第2セッション:「病棟に所属している認定看護師のコンサルテーション活動」
■実際を含めて
講師:香川労災病院 蔦 和子 氏
■質疑応答
■昼食
第3セッション:「ワークショップ・発表(事例をもとに)」
■コメンテーター(佐藤・蔦) チューター(名越・片山・池田)
第4セッション:「先輩に聞く・日々の活動におけるQ&A」
■アドバイザー(佐藤・蔦)

終了報告

がん診療に携わる看護師(認定看護師)の緩和ケアに関する技術・知識の向上をめざし、緩和ケア認定看護師のフォローアップ研修会として開催された。県内の拠点病院で勤務している緩和ケア認定看護師の方を講師にお招きし、認定看護師として実際に勤務している中で経験した緩和ケアの活動について講演いただいた。

アンケート結果の総評価において、非常に良い(48.4%)、おおむね良い(45.2%)と、参加者の多くの方から、受講して良かったとの評価を得た。「具体的な内容でとても参考になった。」「同じ問題や悩みを抱えていることが分かり、今後の参考・活力になった。」などの感想があった。また、グループワークへの関心が高く、参加者の方よりフリーディスカッションできる企画があればとの意見があったので、今後の開催で考慮したい。



岡山 第1回 精神腫瘍WG

日時:平成24年11月15日(木)10:00~
場所:ホテルグランヴィア岡山 4階 オーキット

議題
1. 代表挨拶
2. がんプロにおける精神腫瘍学の講義について
3. コミュニケーション技術研修会について
4. その他



山口 第1回 腫瘍外科医WG

日時:平成24年11月18日(日)13:00~14:00
場所:岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 管理棟3階 中会議室

議題
1. H24年度からのWG委員紹介
2. 前回の議事要旨について
3. 第1期がんプロの実績について
4. 第2期がんプロについて
5. 第2期がんプロの入学人数について
6. 腫瘍外科手術の充実について
(1) コンテンツ数について
(2) コンテンツの掲載場所について
(3) ロボット手術(ダビンチ)の取り組みについて
7. その他



川崎 インテンシブ生涯教育コース講演会

第7回 Oncology Seminar合同講演会

日 時:平成24年11月17日(土) 13:30~16:00
場 所:川崎医科大学 現代医学教育博物館3階 小講堂
参加者:60名

講 演

テーマ:「がん患者の療養を支えるチーム医療～頭頸部がん～」

司 会:川崎医科大学附属病院 看護主任 大石 昌美

■講演①「頭頸部がんの基礎知識」

川崎医科大学 耳鼻咽喉科学 講師 栗飯原 輝人

■講演②「放射線療法を受ける患者の看護」

川崎医科大学附属病院 看護部 看護副主任 荒木 貴子

■講演③「頭頸部がん患者に対する摂食・嚥下リハビリテーション」

川崎医科大学附属病院リハビリテーションセンター 言語聴覚士 矢野 実郎

終了報告

がん医療関係者(メディカルスタッフ)の生涯教育を目的として、がんセンターのセミナーと合同で開催された。今回は、テーマを「がん患者の療養を支えるチーム医療～頭頸部がん～」とし、「頭頸部がんの基礎知識」「放射線療法を受ける患者の看護」「頭頸部がん患者に対する摂食・嚥下リハビリテーション」について、頭頸部がんの基礎知識・放射線療法・放射線療法を受ける患者の看護・リハビリテーションと体系的に、日頃の医療活動につながる講演が行われた。

いずれの講演も、メディカルスタッフに必要な基本的な知識を改めて学べるものとして、有意義かつ日頃の医療活動に直接結びつくものであり、活発に意見交換も行われ、意義深いものであったと考える。

参加者からは「頭頸部がんの話はなかなか聞く機会がなくとても興味を持って聞くことが出来た」、「RT治療、そして看護、リハビリと一連の流れが分かりやすく良かった」等の感想が多くみられ、今後の医療活動につなげていきたいとの高い評価であった。



川崎 第2回 FDWG

日 時:平成24年11月19日(月) 18:30~
場 所:岡山大学病院 入院棟11階 カンファレンスルーム11G

議 題

1. 本年度海外FD研修の進捗状況について
2. 来年度FD研修について
3. FD研修参加費について
4. FD研修報告会(FDWG主催)について
5. その他



岡山 第16回 岡山大学医学物理士インテンシブコース がん放射線科学セミナー

日 時:平成24年11月21日(水) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 入院棟11階 カンファレンスルーム(11D)
参加者:13名

講 演

座長 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

■「二次元検出器に関する文献紹介

—Film・MapCheck・MatriXX の使用経験を踏まえて—

岡山大学病院医療技術部 青山 英樹

■フリーディスカッション



終了報告

この度、強度変調放射線治療(IMRT)などにおける線量検証に用いられる二次元検出器の特性について岡山大学病院医療技術部 青山 英樹先生による講演を行った。大学病院での実際の対応についても細かく説明していただき、とても参考になる内容であった。質疑応答では、川崎医科大学や倉敷中央病院からの参加者からも意見があり、地域における放射線治療の状況について意見交換や情報共有を深めることができた有意義な場となった。

参加者からは、「以前、Filmの特性に関して他の講師から講演していただき、概要を把握した状態で、さらに最近の状況や現場での苦労話が聞けて、理解を深めることができました。」との声があった。

山口 第2回 eラーニングWG

日 時:平成24年11月18日(日) 14:00~15:00
場 所:岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 管理棟3階 大会議室

議 題

1. 前回の議事要旨について
2. クラウド及び中四国がんプロeラーニング操作について
3. 中四国がんプロeラーニングのH25年度以降の存続について
 - (1) 中四国がんプロeラーニング掲載一覧
 - (2) クラウドeラーニング掲載一覧
 - (3) eラーニングシステム比較表(メリット・デメリット)
 - (4) 予算について
 - (5) 木村情報技術より、問題点について
4. がんプロフェッショナル養成推進委員会からのコメントについて
5. その他



徳島 市民公開講座

「ベッドサイドから生まれる未来のがん治療研究—チーム徳島大学の取り組み—」

日 時:平成24年11月25日(日)13:30~16:00
場 所:ホテルクレメント徳島「クレメントホール」
参加者:371名

講 演

■開会挨拶

玉置 俊晃氏

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス(HBS)研究部長

■講演①「がん治療と周術期口腔管理」

東 雅之氏

徳島大学大学院HBS研究部 口腔内科学 教授

司会:高山 哲治氏

徳島大学大学院HBS研究部 消化器内科学 教授

■講演②「がんと栄養学」

中屋 豊氏

徳島大学大学院HBS研究部 代謝栄養学 教授

司会:松岡 順治氏

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 緩和医療学 教授

■休憩(10分)

■リラクゼーションタイム「ヨーガの健康法」

■講演③「がんと免疫:治療法としての現状と展望」

西岡 安彦氏

徳島大学大学院HBS研究部 呼吸器・膠原病内科学 教授

司会:丹黒 章氏

徳島大学大学院HBS研究部 胸部・内分泌・腫瘍外科学 教授

■講演④「がんと遺伝子:それぞれの患者さんに合った治療(個別化医療)」

井本 逸勢氏

徳島大学大学院HBS研究部 人類遺伝学 教授

司会:金山 博臣氏 徳島大学大学院HBS研究部 泌尿器科学 教授

■閉会挨拶

丹黒 章氏

中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム カリキュラム企画運営委員長

終了報告

今回の市民公開講座は、「ベッドサイドから生まれる未来のがん治療研究 / チーム徳島大学の取り組み」というテーマで、駅前のホテルクレメント徳島で行った。当日は、371名の市民の参加があり、『がん治療と周術期口腔管理』、『がんと栄養学』、『がんと免疫:治療法としての現状と展望』、『がんと遺伝子:それぞれの患者さんに合った治療(個別化医療)』というテーマで4つの講演を行った。

参加者は熱心に聴講され、アンケートでは「癌手術体験者の一人としてとても良い講義を聞かせていただきました。」「遺伝子治療について知ることができてすごくよかった。それぞれの研究が進み、近い将来治療に繋がることを切望します。」「一つのテーマに対する講演時間が40~50分位あっても良いのではないかと思います。」など積極的な意見が多く、市民のがんに対する関心の高さが伺えた。参加者は今回の講演で、がんに対する認識を深めただけでなく、チーム徳島大学の大学院教育、「がん専門医療人育成」にも関心や理解を深めた。また後日、徳島県内で高い購読率を誇る徳島新聞紙に特集記事が掲載された。その内容は、当日出席できなかった方の為に講演内容が詳細に掲載されていた。このことにより、がんに対する認識、チーム徳島大学における教育、研究活動などに多くの市民が関心を寄せたものと思われる。



平成24年12月23日 徳島新聞掲載

広島 市民公開講座

わかりやすい脳腫瘍の話

日 時:平成24年11月25日(日)14:30~16:30(開場14:00)
場 所:グランドプリンスホテル広島 瀬戸内6(2F)
参加者:343名

講 演

■ご挨拶 広島大学大学院 脳神経外科学 教授 栗栖 薫

■①脳腫瘍全体のオリエンテーションとグリオーマ

広島大学病院 がん化学療法科 教授 杉山 一彦

■②下垂体腫瘍

広島大学大学院 脳神経外科学 准教授 富永 篤

■③髄膜腫と神経鞘腫

広島大学病院 脳神経外科 診療准教授 江口 国輝

■④小児脳腫瘍と転移性脳腫瘍

広島大学大学院 脳神経外科学 助教 山崎 文之

終了報告

今回の市民公開講座は、オムニバス形式で行われた。杉山一彦教授、富永篤准教授、江口国輝診療准教授、山崎文之助教の順に、脳腫瘍をテーマにそれぞれ簡潔に分かりやすくスライドを用いて解説していただいた。

当日は、多くの一般市民の方々に参加をいただき盛況であった。また、多くの参加者から「分かりやすかった」という評価とともに、次回開催を希望される意見もいただくことができた。がんの中でもなじみの薄い脳腫瘍の理解に役立ったものと思われる。

広島 第27回 広島大学病院放射線治療講演会

日 時:平成24年11月27日(火)18:00~
場 所:広島大学 歯学部B棟2階 大会議室
参加者:21名

講 演

司会 広島大学病院放射線治療科 教授 永田 靖

■Advanced Radiation Technologies for Malignant Pleural Mesothelioma: Outcomes and Future Directions.]

Daniel Gomez, M.D. (M.D. Anderson Cancer Center)

■[Recent Progress made in the Outcome of Patients with Lung Cancer.]

Ritsuko Komaki, M.D. (M.D. Anderson Cancer Center)

終了報告

この度、テキサス大学附属MDアンダーソンがんセンターから講師として Ritsuko Komaki先生、Daniel Gomez先生をお招きして、放射線治療講演会を実施した。講演のテーマは、Gomez先生が「Advanced Radiation Technologies for Malignant Pleural Mesothelioma: Outcomes and Future Directions.」、Komaki先生が「Recent Progress made in the Outcome of Patients with Lung Cancer.」であった。

当日は、英語によるご講演であったが、参加者との活発な意見交換が行われた。

岡山 第15回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 地域連携セミナー

日 時: 平成24年11月27日(火) 18:30~20:00
場 所: 福山市民病院 大講堂(2階)
参加者: 20名

講 演
座長 福山市民病院放射線科 羽原 弘士
■「当院におけるTBI導入経験について」
中国中央病院放射線科 藤井 康志
■フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、福山・尾道方面の関連病院の放射線治療スタッフを対象に、全身照射の導入経験について中国中央病院 藤井康志先生よりご講演いただいた。当該施設において初めて全身照射導入を経験され、その準備から実際の運用に至るまでの背景、そして現状や課題について述べられた。ディスカッションでは、参加者から広島方面と岡山方面での運用の違いなどの意見や質問を交えて活発な議論がなされた。参加者からは、「全身照射の導入経験に関する報告であり、福山・尾道方面では初めての事例でした。ピースを用いた線量補正技術について解説があり、様々な方法があることを知りました。また、広島方面と岡山方面で方法が若干異なることもわかり興味深かったです。」との声があり、今後も継続的に企画開催し、より多くの方が参加できるような環境を目指したい。



岡山 第17回 岡山大学医学物理士インテンシブコース がん放射線科学セミナー

日 時: 平成24年12月5日(水) 19:00~20:30
場 所: 倉敷中央病院 2棟地下1階 放射線治療室
参加者: 21名

講 演
司会 倉敷中央病院 放射線センター 近藤 和人、山下 大輔
■「Delta4を用いたVMAT検証の実際 ~実機によるデモ~」
ユーロメディテック株式会社 技術部 瀧本 健二
■フリーディスカッション

終了報告

今回は、倉敷中央病院にて強度変調放射線治療(IMRT)などにおける線量検証に用いられる三次元検出器の特性について、講演および実機によるデモを行った。実機によるデモでは、実際の対応について細かく説明していただき、とても参考になる内容であった。最後に、参加者との議論がなされ、実務内容について意見交換や情報共有を深めることができ、盛況に終わった。

参加者からは、「以前、二次元検出器やFilmの特性に関して他の講師から講演していただきましたが、今回は三次元検出器の概要説明と実際の動作を見ることができました。さらに、最近の状況や現場での苦労話について、倉敷中央病院のスタッフから聞くこともでき、理解を深めることができました。」「今回のセミナーを通じて、今後、自施設での対応などを考えることができました。」との声があった。



高知 第4回 高知口腔ケアフォーラム

日 時: 平成24年12月8日(土) 16:00~18:00
場 所: 高知商工会館
参加者: 130名

講 演
テーマ: ~がん患者を支える口腔ケア~
■特別講演
座長 高知大学医学部附属病院 がん治療センター 部長
高知大学医学部外科学講座 臨床腫瘍・低侵襲治療学 教授 小林 道也 先生
「がん緩和ケアにおける口腔ケア」
聖隷三方原病院 リハビリテーション科 歯科 医長 大野 友久 先生
■一般講演
座長 高知大学医学部附属病院 歯科口腔外科 教授 山本 哲也 先生
演題1「口腔ケアにおける院内連携の現状と今後」
高知大学医学部附属病院 歯科口腔外科 歯科医師 笹部 衣里 先生
演題2「当院における口腔ケアの取り組みと多職種との連携」
社会医療法人 近森会 近森病院 看護師 佐野 登代子 先生

終了報告

今回で4回目の開催となる本フォーラムでは、聖隷三方原病院の大野友久先生の特別講演のほか、本学附属病院の歯科医師の笹部衣里先生による院内連携についての演題、近森病院看護師の佐野登代子先生による口腔ケアの取り組みや多職種との連携についての一般演題の発表が行われ、参加者からは好評であった。

岡山 第4回 がん治療認定医(歯科口腔外科)養成インテンシブコース

日 時: 平成24年12月9日(日) 9:00~15:30
場 所: 岡山コンベンションセンター 2階レセプションホール
参加者: 113名(内訳: 歯科医師86名、看護師4名、歯科衛生士22名、歯科技工士1名)

講 演
座長 佐々木 朗 先生(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔顎顔面外科学分野)
宮本 洋二 先生(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
統合医療創生科学部門 分子口腔医学講座 口腔外科学分野)
■教育講演1 「口腔癌術後の顎顔面補綴」
西川 悟郎 先生(岡山大学病院 咬合・義歯補綴科)
■特別講演「口腔癌に対する手術療法」
小村 健 先生(東京医科歯科大学大学院 顎口腔外科学分野)
■教育講演2
『医科歯科連携がん医療における口腔管理の意義と実際』
「徳島大学病院における口腔ケアの現状・概要と実際」
日野出 大輔 先生(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 保健科学部門 口腔保健学講座 口腔保健衛生学分野)
十川 悠香 先生(徳島大学病院 診療支援部 歯科衛生士)
「岡山大学病院における口腔管理への取り組み」
曾我 賢彦 先生(岡山大学病院 医療支援歯科治療部)

終了報告

今回のプログラムは、手術療法から顎補綴と口腔管理まで内容が多岐にわたっていたため、多くの歯科医師に加えて、看護師、歯科衛生士、歯科技工士の参加者もあった。そのため、参加者はこれまでの最高59名を大幅に上回る113名となり、大盛況であった。また、講演内容も充実しており、有意義なセミナーとなった。



徳島 臨床腫瘍薬剤師講演会

日 時:平成24年12月11日(火)18:30~19:20
場 所:ホテルクレメント徳島 4階「クレメントホール」
参加者:83名

講 演
総合司会 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 臨床薬理学 教授
水口 和生 先生

〈特別講演〉

座長 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 医薬品機能生化学 教授
土屋 浩一郎 先生

「明日から使える"緩和医療における薬の使い方"
～誰にでも出来る症状緩和のポイント～

演者 沼津市立病院 薬剤部 副薬剤部長 真野 徹 先生

終了報告

講演を依頼した真野先生は、「緩和医療における薬物療法」の分野では日本を代表する臨床家の一人である。今回の講演会では疼痛管理について、「どうしても吐き気のコントロールがうまくいかない患者の症状緩和」と「骨転移痛の患者に対する疼痛管理」という2題について、会場の参加者と対話方式で症例検討を行った。講演の最後には、William Oslerの言葉を引用し、『がん患者には痛みを除去するために痛み止めを要求する権利がある。医療人はそれに応える義務がある』『有効な治療法が存在するのに、それを医師に提案しない医療人には弁明の余地がなく倫理的に許されないことである』という言葉で締めくくられ、大変意義深い講演会であった。

参加者からは、「薬剤師による緩和医療・補助療法への介入について学ぶことができる良い機会となった」との声があり、今回の講演は薬剤師による緩和医療への取組ということで、参加者からも具体的な質問が寄せられ、有意義な講演会であった。



高知 在宅がん医療講演会

日 時:平成24年12月14日(金)18:00~19:00
場 所:高知大学医学部 臨床講義棟2階 臨床第3講義室
参加者:40名

講 演
演題 「在宅医療における緩和ケア病棟の役割
～家に帰してあげたい～」
講師 もみのき病院緩和ケア病棟 神原 哲也 先生

終了報告

本講演会では、もみのき病院の神原哲也先生を講師にお迎えし、「在宅医療における緩和ケア病棟の役割～家に帰してあげたい～」と題してご講演いただいた。

本学附属病院の医療従事者のみでなく、県内医療機関の医療従事者や高知県立大学のがんプロ学生からも多数の参加があった。また、アンケートでは、「今まで聞けなかったことが聞けて良かった。」や「実際にがん治療に携わっている医師にもっと参加してほしい。」などの意見があり、参加者からは大変好評であった。



10大学 第13回コンソーシアム協議会

日 時:平成24年12月18日(火) 14:00~
場 所:岡山大学医学部 記念会館2階 会議室

議 題

■協議事項

- 1.平成25年度予算配分について
- 2.グループ固有の達成目標・評価指標について
- 3.その他

■報告事項

- 1.各WGからの報告
- 2.各大学の事業進捗状況報告
- 3.その他



徳島 大学院臨床腫瘍学教育課程 第3回 Tissue Array セミナー

日 時:平成24年12月18日(火)18:30~20:00
場 所:徳島大学医学部 第1会議室(基礎A棟2階)
参加者:60名

講 演
開会挨拶 徳島Tissue Array研究会代表 丹黒 章
司会 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 人類遺伝学分野
井本 逸勢 教授

演題 「がんゲノム解析:パーソナルオノロジーの実践に向けて」
講師 油谷 浩幸 先生
東京大学先端科学技術研究センター ゲノムサイエンス分野 教授

終了報告

この度の講演会では、がんシークエンス解析の第一人者である東京大学先端科学技術研究センター 油谷 浩幸先生より、がん研究におけるシークエンスに関する解析をわかりやすくご説明いただき、個別化治療の可能性、世界の現状を明快に解説された。参加者は熱心に聴講し、質疑応答も活発に行われた。がんシークエンス解析の第一人者である講師の講義を直接拝聴することができ、非常に有意義な講演会であり、研究へのモチベーションが高まったと考えられる。



岡山 第16回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 地域連携セミナー

日時:平成24年12月19日(水) 19:00~20:30
 場所:岡山大学病院 入院棟11階 カンファレンスルーム(11D)
 参加者:16名

講演
 座長 岡山大学病院医療技術部放射線部門 大野 誠一郎
 ■「MRボリュームイメージング~体動補正の最新技術~」
 島根大学医学部 放射線医学講座 内田 幸司 先生
 ■フリーディスカッション

終了報告

本講演会では、3次元MRI撮像に関する最新技術について、島根大学医学部 内田幸司先生からご講演いただきました。MRIは、近年急速に普及しはじめていますが、特に3T装置が注目されており、島根大学の3T MRIでは体動補正に関する最新技術を駆使している。ご講演の内容は幅広く、豊富な臨床経験のもと、原理から撮像技術に至るまでわかりやすく説明していただきました。ディスカッションでは、実際に臨床に従事している参加者からの質問や意見を交えて活発な議論が交わされた。学生の参加も多く、学生向けとしても有用だったと思われる。

今回のセミナーでは、放射線治療への応用としての課題とされる撮影中の動きの影響による補正技術や歪みの影響についてご講演していただき、さらに講師の国際発表事例についてもご紹介していただきました。

参加者からは「3T MRIでは、従来の1.5T MRIに比べてより感度が高く、磁場均一性の影響をうけることで撮像中の動きや画像の歪みが発生しやすいことがわかりました。」「最新技術の紹介も含めて、原因と対策について解説していただき、実際の臨床応用に向けたノウハウを教わることができました。」「本セミナーでは、MRIの最新臨床技術も含めて、わかりやすく講義をしていただき、とても有用に感じました。」などの声があった。



岡山 第17回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 地域連携セミナー

日時:平成25年1月9日(水) 19:00~20:30
 場所:岡山大学病院 入院棟11階 カンファレンスルーム(11C)
 参加者:13名

講演
 座長 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇
 ■「拡散テンソルMRIとその解析・可視化技術」
 九州大学大学院医学研究院 保健学部門
 熊澤 誠志 先生
 ■フリーディスカッション

終了報告

今回は、分子内の拡散レベルの違いを画像化し、Tractographyに応用される拡散テンソルMRIに関する画像処理技術について、九州大学大学院医学研究院の熊澤誠志先生から講演していただきました。MRIの最新ハードウェアとして3T装置の応用が注目されているが、ソフト面においても拡散テンソル画像が注目されている。講義では、拡散テンソルMRIの原理から応用に至るまで、とてもわかりやすく説明していただきました。ディスカッションでは、活発な議論がなされた。

参加者からは、「拡散テンソルMRIについて講演していただき、さらに講師の国際発表事例も紹介していただき、テンソルに関する数学的内容からMRIでの拡散画像の撮像原理、3次元画像処理技術に至るまで幅広く学ぶことができました。」との声があった。



岡山 第18回 岡山大学医学物理士インテンシブコース がん放射線科学セミナー

日時:平成24年12月21日(金) 19:00~20:30
 場所:岡山大学病院 入院棟11階 カンファレンスルーム(11D)
 参加者:14名

講演
 座長 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇
 ■「3次元半導体検出器について-ArcCheck, 3DVHを中心に-」
 東洋メディック株式会社 技術3課 荒木 教行
 ■フリーディスカッション

終了報告

今回のセミナーでは、強度変調放射線治療(IMRT)などにおける線量検証に用いられる三次元検出器の特性について講演が行われた。ハード面、ソフト面に関する最新的话题を詳説していただき、臨床現場において有用とされる内容であった。最後に参加者との議論がなされ、実務内容について意見交換や情報共有を深めることができ、盛況に終わった。

参加者からは、「以前のセミナーで、二次元検出器、三次元検出器やFilmの特性に関して他の講師から講演や実機によるデモなどを開催いただきましたが、今回は新しい三次元検出器の概要説明について知ることができました。セミナーを通じて、今後の自施設での対応などを考えることができました。」との声があった。



広島 がんプロ講演会

「臨床医が行う肺癌の基礎・トランスレーショナル研究」

日時:平成25年1月10日(木) 19:00~20:15
 場所:広仁会館 中会議室(広島大学霞キャンパス)
 参加者:16名

講演
 演題:「臨床医が行う肺癌の基礎・トランスレーショナル研究」
 講師:神戸大学 呼吸器外科教授 真庭 謙昌 先生

終了報告

本講演会では、神戸大学呼吸器外科教授 真庭 謙昌先生より「臨床医が行う肺癌の基礎・トランスレーショナル研究」について講演していただき、参加者との意見交換がなされた。

高知 第3回 市民公開講座

「がん検診」～身近なことからはじめよう～

日 時:平成25年1月12日(土)14:00～16:30
場 所:高知商工会館 4階 光の間
参加者:45名

講 演

司 会:がん治療センター 副部長 岡本 健

■病院長挨拶

高知大学医学部附属病院院長 杉浦 哲朗

■演題1「肺がん～意外と知らない検診のこと～」

血液・呼吸器内科学:窪田 哲也

■演題2「年齢に応じた乳癌検診～現状と将来～」

外科学(外科1):杉本 健樹

■(休憩10分)

■演題3「胃がんについて～早期発見と早期治療～」

消化器内科学:水田 洋

■演題4「大腸がん検診について」

がん治療センター:岡本 健

終了報告

第3回目となった今回の市民公開講座は、「がん検診」をテーマとして開催された。本講演では「肺がん・乳がん・胃がん・大腸がん」の検診について大まかな流れや検診による予防効果などの説明があった。参加者からは、「内視鏡の最新治療が動画で見れて内容がわかりやすかった」、「日本は欧米に比べると検診率がだいぶ低い事がわかった」、「早期発見早期治療の重要性がよくわかったので、家族にもがん検診を受けるよう勧めたい」などの感想があり、市民の皆様にも、がん検診の必要性について知見を深めていただけたと考える。



岡山 第18回 岡山大学医学物理士インテンシブコース 地域連携セミナー

日 時:平成25年1月16日(水)19:00～20:30
場 所:岡山大学病院 入院棟11階 カンファレンスルーム(11C)
参加者:14名

講 演

座長 岡山大学病院 医療技術部 赤木 恵明

■「中四国放射線医療技術フォーラム(CSFRT)から世界へ」

広島大学病院 診療支援部 高次医用画像部門 横町 和志 先生

■フリーディスカッション

終了報告

この度、放射線医療技術の研究実践について、広島大学病院診療支援部の横町和志先生より講演していただいた。ご自身の豊富な経験のなかから、海外研修やCTに関する国内学会、国際学会での体験をお話くださった。講義では、どのように臨床課題を見つけ研究応用し、質の高い医療技術を提供すべきか、新人、若手向けにわかりやすくご説明いただいた。ディスカッションでは、会場からの質疑が多数あり、いつも以上に充実した議論が交わされた。

参加者からは、「スタンフォード大学の海外研修に参加された内容や国内・国際学会での発表を中心に講演していただき、自らの経験を元に日常診療を通じて実践できる社会活動についても紹介していただきました。」「本セミナーでは、CTに関する研究の内容だけでなく、若手人材育成に重要とされるモチベーションの維持や向上に関する内容を含めて、理解しやすい講義をしていただき、とても有意義に感じられました。」との声があった。



岡山 市民公開講座

知っていると必ずあなたの役に立つ！ あなたに身近な放射線治療

日 時:平成25年1月13日(日)13:00～16:50(開場12:30)
場 所:岡山コンベンションセンター3階 コンベンションホール
参加者:190名

講 演

■開会挨拶

谷本 光音 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科血液・腫瘍・呼吸器内科学講座教授

■第1部

講演1「こんな風にする放射線治療」

勝井 邦彰 岡山大学病院放射線科助教

講演2「肺がんを切らずになおすピンポイント照射」

永田 靖 広島大学医歯薬学総合研究科放射線腫瘍学教授

講演3「新しいがん治療 粒子線治療」

不破 信和 兵庫県立粒子線医療センター院長

講演4「痛みからの解放 放射線治療」

榮 勝美 岡村一心堂病院がんセンター長、放射線治療科部長

講演5「私の受けた放射線治療」

患者代表

■休憩

■第2部 「あなたの質問に答えます！！」

■第3部 「がん放射線相談(個別対応)」

■閉会挨拶

金澤 右 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科放射線医学教授

終了報告

平成25年1月13日に、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム主催で市民公開講座が開かれました。今回の市民公開講座は「知っていると必ずあなたの役に立つ！ あなたに身近な放射線治療」と題して、がんに対する放射線治療を中心に、3部構成で行いました。3連休の中日であいにくの曇り空でしたが、190名の市民の皆様にご参加いただきました。

第1部では、まず4人の著名な先生に、放射線治療に関する講演をしていただきました。岡山大学病院放射線科助教 勝井邦彰先生には日頃馴染みの薄い放射線治療の概略を、広島大学医歯薬学総合研究科放射線腫瘍学教授 永田靖先生には最先端機器を用いて緻密に計算され、病期によっては手術に匹敵する安全な放射線治療を、兵庫県立粒子線医療センター院長 不破信和先生には高度先進医療の対象となっている粒子線(陽子線・炭素線)治療の現状を、岡村一心堂病院がんセンター長 榮勝美先生には除痛を目的とした緩和的放射線治療をそれぞれ講演していただきました。5人目の演者は、実際に放射線治療を受けられた患者さんにお話し、快諾していただきました。実際の治療に関する苦労や治療後の喜びなどを話して頂き、感動的な自作のDVD上映後は会場が大きな拍手に包まれました。

第2部では、事前に募集しておいた放射線治療に関する質問と、当日講演を聴いて疑問に思ったことをパネル形式で回答していきました。多くの質問が寄せられていたため、すべての質問に答えることはできませんでしたが、時間の許す限りわかりやすく回答しました。当日回答できなかった質問に関しては、後日中四国がんプロホームページ上で回答することにさせていただきました。

第3部は放射線専門医が4ブースに別れ、個別相談を行いました。予約制で限られた人数ではありませんでしたが、放射線治療に関する素朴な疑問や、自分もしくは身近な人の実際の治療に関する疑問などに対して、個別の回答を行いました。



参加大学

Consortium Member



川崎医科大学 Kawasaki Medical School

がん専門医養成コース
●学務課教務係
TEL(086)464-1012



岡山大学 Okayama University

がん専門医養成コース・がんプロ在宅高齢者緩和コース
精神腫瘍医コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ大学院担当
TEL(086)235-7986
がん専門・指導薬剤師養成コース
●医歯薬学総合研究科等薬学系事務室教務学生担当
TEL(086)251-7923
高度実践看護師(がん看護)コース
がん放射線科学コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ保健学研究科担当
TEL(086)235-7984



広島大学 Hiroshima University

がん専門医養成コース
がん専門薬剤師養成コース
がん看護高度実践看護師養成コース
医学物理士養成コース
●医歯薬保健学研究科等学生支援グループがんプロ事務室
TEL(082)257-1538



山口大学 Yamaguchi University

腫瘍外科アドバンスコース
腫瘍内科アドバンスコース
放射線治療アドバンスコース
研修医腫瘍専門医コース
●医学部学務課大学院教務係
TEL(0836)22-2058



愛媛大学 Ehime University

臨床腫瘍学教育課程がん専門医養成コース
●医学部学務課大学院チーム
TEL(089)960-5868



高知県立大学 University of Kochi

※2011年4月より「高知女子大学」から
校名を変更しました。

がん高度実践看護師(APN)養成コース
●学生課大学院担当
TEL(088)847-8580



高知大学 Kochi University

臨床腫瘍内科系コース
放射線治療専門医コース
臨床腫瘍外科系コース
がん専門薬剤師養成コース
医学物理士養成コース
●医学部・病院事務部学生課大学院担当
TEL(088)880-2263



香川大学 Kagawa University

腫瘍内科系専門医養成コース
緩和医療専門医養成コース
腫瘍外科系専門医養成コース
放射線治療専門医コース
●医学部総務課学務室大学院入学試験係
TEL(087)891-2074



徳島文理大学 Tokushima Bunri University

がん専門薬剤師履修コース
●香川キャンパス庶務渉外グループ
TEL(087)894-5111



徳島大学 Tokushima University

臨床腫瘍内科学コース・臨床腫瘍放射線医学コース
臨床腫瘍外科学コース・臨床腫瘍栄養学コース
●医歯薬事務部学務課大学院係
TEL(088)633-9649
臨床腫瘍薬剤師コース
●医歯薬事務部薬学部事務室学務係
TEL(088)633-7247
臨床腫瘍看護学コース・医学物理学コース
●医歯薬事務部学務課第二教務係
TEL(088)633-9009

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Vol.37

□ 編集兼発行者
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局
TEL 086-235-7023 info@chushi.ganpro.jp

□ 印刷所
有限会社 ファーストプラン